

自主改善努力評価に関する事項

1 後席シートベルト着用の啓発

(1) 活動状況

乗員のシートベルト着用率を向上させることが自動車事故による死亡重傷者数の削減につながることから、特に着用率の低い後席シートベルトの着用効果について、一般講習テキストに掲載するとともに、講習会場でのチラシ配布、後席シートベルトを着用しない場合と着用した場合の衝突映像を流し、運行管理者等に対し周知を図った。

また、適性診断受診者に対しても同様に周知を図った。

(2) 効果

後席シートベルト着用効果について、運行管理者及び適性診断受診者に対して周知が図られた。

(3) 今後の課題

引き続き、後席シートベルト着用効果について指導講習及び適性診断実施時において周知を図っていく。



【一般講習テキスト】



【配付チラシ】



【シートベルト非着用映像】



【シートベルト着用映像】

2. 重度後遺障害者及びその家族に対する訪問支援の強化

(1) 活動状況

本年度より、開始した「訪問支援サービス」の効率的な運用を図るために、「訪問サービス実施マニュアル」を作成し、取り扱いについて担当職員に対して4月及び11月に説明を行った。

(2) 効果

訪問支援サービスを各支所において、「訪問サービス実施マニュアル」を参考として、訪問支援サービスを実施することにより、より効果的な受給者等に対する精神的支援が行えた。

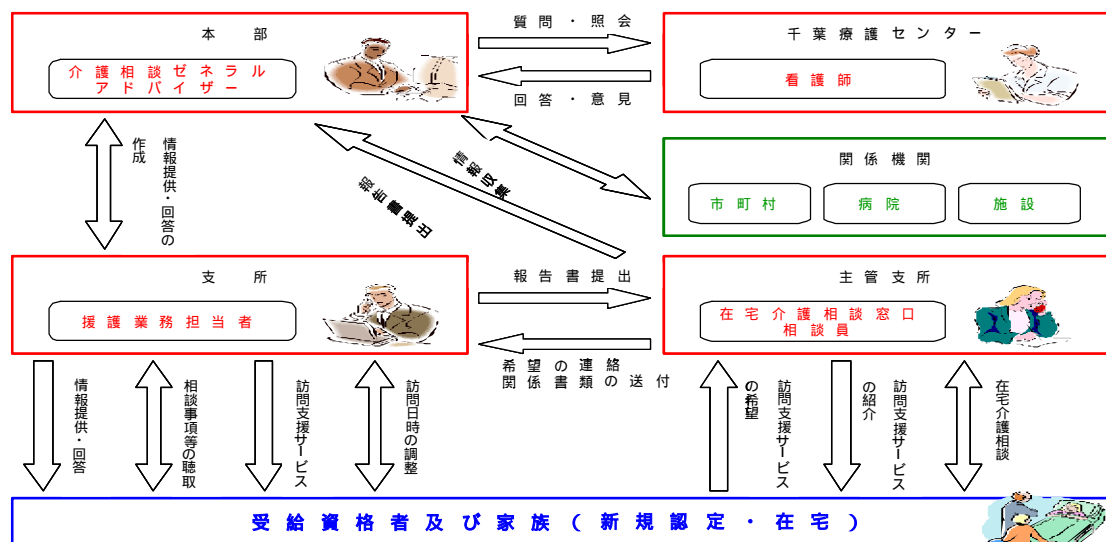
(3) 今後の課題

本年度の訪問支援サービスの実施結果報告を踏まえ、「訪問サービス実施マニュアル」のブラッシュアップを行う必要がある。

【訪問支援サービス実施マニュアルの概要】

1. 概要
2. 目的
3. 訪問支援サービスの流れ

訪問支援サービスのフローチャート



4. 訪問支援サービス実施要項（抜粋）

- ・日時の決定
- ・接遇の心得
- ・訪問時の注意
- ・実際の進め方
- ・面談時の聞き取り方
- ・「面談シート」の記載方法

3．療護センター担当者会議の活動内容

(1) 活動状況

療護センターの効率的な運営及び療護センターの医療・看護技術等の開発・向上を図るため、各療護センターのセンター長、看護師長及び医療関係スタッフ並びに機構担当職員をメンバーとする会議をセンター長、看護師長、リハビリ担当責任者、メディカル・ソーシャルワーカー別に年2回ずつ開催し、現状及び課題の整理を行い、対応策など業務検討を行った。

(2) 効果

療護センター等の現状及び課題の整理を行い、医師、看護師、リハビリ担当者、ソーシャルワーカー別にそれぞれ対応策など業務検討を行うとともに、情報の共有を図り、入院患者等への質の高い治療・看護等の充実を図った。

業務運営の効率化（医療機器の有効利用と維持管理）

治療・看護・リハビリ技術等の開発・向上

治療・看護・リハビリ技術の社会還元（学会、他の医療施設、在宅患者の介護者等）

治療効果の測定方法、効果分析等

患者の退院後のフォロー

患者の入院期間の短縮

療護センター機能の病床委託病院への協力・支援

患者家族等への支援の充実強化

等

(3) 今後の課題

同担当者会議の検討結果を踏まえ、療護センターの入院患者及び在宅介護の遷延性意識障害者に対し、より質の高い治療・看護等を提供していくことが必要である。

3 - 2 . 療護センターの広報ビデオ

(1) 活動状況

平成 1 7 年度に作成した療護センターの広報ビデオ（『社会復帰を願って』）を活用し、療護センターの目的、業務内容等について、引き続き広報活動を実施。

(2) 効果

1 7 年度に作成した療護センター広報ビデオ、DVDを、運送業者、事業者団体などに対し、研修、講習、会議、イベントなどあらゆる機会に上映してもらい、なるべく多くの方が視聴できるよう支所のトップセールス等による働きかけを行った。

(3) 今後の課題

療護センターの存在や役割についての広報は、今後も引き続き継続していくことが必要と考えている。

【療護センター広報ビデオ・DVD】



4. 積極的な広報の実施

(ホームページの活用)

(1) 活動状況

機構一体として広報活動を積極的に展開するため、ホームページについてはアクセスしやすいサイトを目指してページデザインの改良などを図るとともに、こまめなデータの更新を行った。また、新しいサービスとして交通安全情報や被害者援護制度などの情報を提供するため、5月よりNASVAメールマガジンの発行を開始した。

(2) 効果

ホームページ

ユーザーの視点に立った見やすいホームページを目指し改良するとともに、コンテンツの追加やメンテナンスを随時行なった結果、約112万のアクセスを記録し、開設以来初めて100万アクセスを突破した。

メールマガジンの発行

プッシュ型広報を展開するために5月よりNASVAメールマガジンの発行を開始した。19年度は7回の発行を行い、タイムリーな情報の提供を行った。

広報プロジェクトチーム

広報の現状と課題の分析、効果的な広報の実施を検討するために活動を行った。

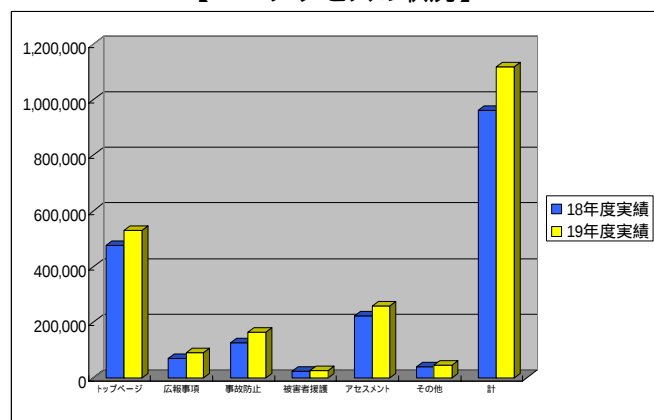
プロジェクトチームでは機構の使命(ミッション)を明確にするため、新しい宣言文、使命、行動指針の策定を行うとともに、事務室への掲示、ホームページへの掲載など対外的なPRを実施した。

また、機構パンフレットの企画・検討を行い、全面改訂を実施するなど広報活動の充実を図った。

(3) 今後の課題

今後、さらなる広報活動の展開を図るため、広報プロジェクトチームでの実行結果も踏まえつつ、さらに機構の認知度の一層の向上を図り、業務全般の理解を得ることに努める。

【HPアクセスの状況】



【NASVAメールマガジン】



NASVAメールマガジン第一号発行にあたって
【NASVA理事長・金澤 恒】

この頃は昔と違って、どこの職場でも管理職であれ専門職であれ、箱からのんびりと新聞や専門誌をじっくり読んでいるゆとりなどなくなっていました。しかし、そのかわりに今では多くの職場の卓上に、ネットにつながったパソコンがあり、デスクワークのうちかなりの部分は、パソコンを扱うことにより処理できるようになりました。

【新しい機構パンフレット】

NASVAは 安全・安心のパートナー

◆ 私たちの使命

自動車事故防止と被害者支援を通して、
安全・安心・快適な社会作りに貢献します。

私たちの
行動指針

1. お客さま満足度を高めるよう努めます。
2. 社会環境の変化に迅速に対応し、
新たな業務に積極的に挑戦します。
3. 公益性の高い業務としての社会的責任を
常に自覚し、公平・公正に行動します。
4. 効率的な業務遂行のため、常に改善に努めます。
5. たゆまず自己研鑽に努め、高い専門性を身につけます。
6. 積極的な情報提供に努めるとともに、
個人情報保護を厳守します。
7. 全員が一致して業務を遂行し、
活力ある職場づくりに努めます。

NASVA

◆ 事故を防ぎます

- 通行管理者等の指導講習 01
- 運転者の適性評価・カウンセリングの実施 02
- 道路安全マネジメント支援 03 04

◆ 被害者を支えます

- 初発事故の慰問・遺族 05 06
- 家族後遺障害者介護料支給 07
- 交通後見費や遺族の葬料や費用、別荘の修繕費、家賃補助 08

◆ 安全な自動車選びの情報を提供します

- 自動車の安全性試験を実施（自動車アセスメント） 09 10
- NASVA 交通事故被害者ホットライン 11

私たち NASVA の
活動です



NASVA
独立行政法人自動車事故対策機構（NASVA: National Agency for Automotive Safety & Victims' Aid）は、国土交通省の所屬機関として、交通事故の防止と被害者の支援に努めています。
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 国土交通省庁舎5階（〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 国土交通省庁舎5階）
TEL: 03-6508-1111 FAX: 03-6508-1112 E-MAIL: info@nasva.go.jp

NASVA

CORPORATE PROFILE



守る
防ぐ
支える

独立行政法人
自動車事故対策機構

National Agency for Automotive Safety & Victims' Aid

NASVA

独立行政法人
自動車事故対策機構

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
11階（〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 国土交通省庁舎5階）
ホームページ: <http://www.nasva.go.jp/>

TEL: 03-6508-1111
FAX: 03-6508-1112
E-MAIL: info@nasva.go.jp



新千代田ビル（〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1）5階
（〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 国土交通省庁舎5階）